

## 篠部正幸氏文書(1)(2)概要

- 1: 文書群番号 075004
- 2: 文書群名 篠部正幸氏文書(1)(2)
- 3: 出所 篠部正幸家
- 4: 家業・役職等 穴太・額田村庄屋、柘植氏知行所六ヶ村取締庄屋、穴太村区長ほか
- 5: 地名 摂津国川辺郡穴太村／兵庫県川辺郡穴太村／川辺郡園田村穴太／尼崎市穴太／尼崎市東園田町4丁目ほか
- 6: 行政区分 旗本柘植氏(正俊系)／兵庫県第12区／下食満組戸長役場／園田村／尼崎市
- 7: 歴史  
穴太村は尼崎市域の北東部、猪名川と藻川の間に位置し、慶長6年(1601)には旗本柘植氏(正俊系)の知行所となった。元和元(1615)～3年の間建部政長の領地であったとする史料もある。村高228石余。幕末まで柘植氏領であったが、慶応4年に新政府に公収され大阪府司農局の管轄となった。氏神は白井神社、水利組合は三ツ又井に所属した。篠部家は穴太村庄屋をつとめた家であり、また近世後期から幕末には、同じ柘植氏領(相給)の額田村庄屋を兼帯、また柘植氏所領六ヶ村取締庄屋もつとめた。  
(※)六ヶ村：篠部氏本家領摂津国嶋下郡吹田村・川辺郡穴太村・額田村と、分家分の近江国滋賀郡小野村・栗原村、河内国河内郡植付村。  
穴太村は明治22年(1889)には園田村の大字、昭和22年(1947)以降は尼崎市の大字となった。昭和36年(1961)町名改正により東園田町の一部となり、穴太の地名は消滅した。
- 8: 伝来 市史編集室が調査済みであった本文書群を、昭和50年に篠部光紘氏が史料館へ寄託。同氏文書(3)と本来一体。
- 9: 史料入手先 篠部光紘氏
- 10: 点数 1741点(目録件数1645件)
- 11: 年代 元和5年(1619)～昭和16年(1941)
- 12: 構造と内容  
本文書群は篠部家と穴太村関係の史料からなる。篠部家史料は近世・近代の農業経営、金融・土地証書類、普請・冠婚葬祭関連史料など。穴太村関係史料はおおまかに①領主旗本柘植氏、②土地・貢租、③村政・村況、④水利、⑤信仰に分類される。①は特に寛政から慶応期にかけての御用状が多く、これらは柘植家役人より庄屋へあてたもので、安政大地震(安政2、1855)の江戸の被害や献金、在払米入札代金為替の送金、江戸屋敷の普請などについて記述がある。  
②は免定をはじめ年貢収納関係の諸帳簿が多種・大量に残る。近世・近代土地売買証書類、明治初年の地租改正・地価修正関係史料もまとまっている。  
③は穴太村明細帳(元禄2、慶応4)のほか、五人組帳・村方申合せ、村入用支配割り、宗旨人別・送籍関係、村役人任命関係史料などがまとまっている。また近代史料では村入費・協議費、明治期小学校建設、送籍・寄留関係史料などがみられる。  
④は三ツ又井関係史料で、藻川上流の大井・三平井との水論史料・絵図や、堤・樋等普請入用関係史料が多く残る。  
⑤は村社白井神社の宮座・普請・寄進関係史料のほか、摂津地域の真宗門徒で組織される摂津十三日講や護持会史料、伊勢参宮関係史料がある。

13: 関連史料 篠部正幸氏文書(3)

- 14: 閲覧条件            原本
- 15: 作成者             三浦寿代

※本目録は『古文書・近現代文書類目録集』4(『尼崎市史編集目録集』12・27)掲載の「篠部正幸文書目録(正)(続)」に新たに差出(編著)・宛先・形態・点数・和暦(年月日)・西暦等の情報を追加しました。  
※本目録を作成するにあたり、本文書群の再整理を行いました。再整理(文書整理カード採録)は、古文書再整理作業ボランティアの方々にご協力いただきました。